

10

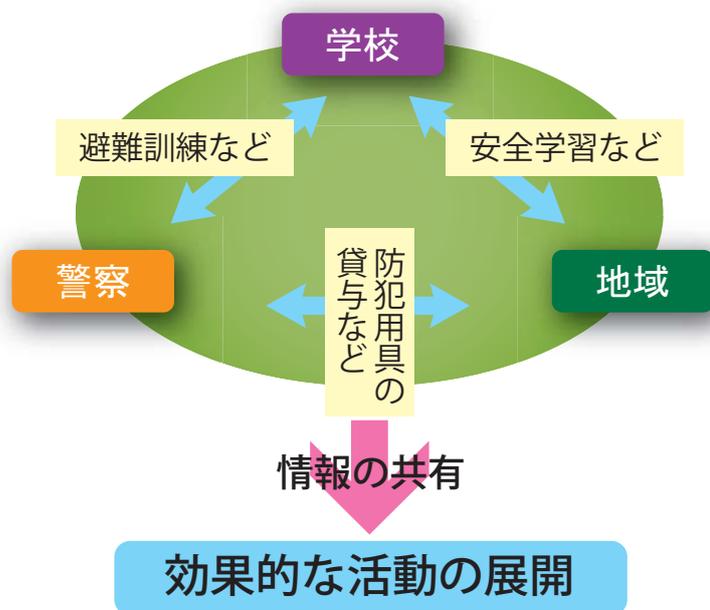
地域での組織作りと連携

学校・警察・地域の連携

学校では学期に一回程度、全校で避難訓練を行います。その際に、警察官が参加し、不審者が学校に侵入した際の安全な対応の仕方を子どもたちに指導します。また、日常的な安全学習の際に地域の防犯ボランティア団体が参加して、安全に生活する上で日頃から注意すべき事柄や校区の危険箇所を指導します。このような取り組みを通して、地域参加型の安全教育を学校で実施することが可能になります。

地域の防犯ボランティアは、学校から提供を受けた児童の下校時刻に合わせて校区内を見回り、その中で気づいた危険箇所や危険行為を学校に連絡したり、パトロールで発見された非行行為や防犯灯を設置すべき箇所を警察や行政に連絡したりします。

警察も地域への広報活動の中で学校の防犯活動や安全教育の取り組みを紹介したり、地域の防犯団体による取り組みを紹介したりします。また、警察が赤色灯やタスキ、のぼりなどを防犯団体に貸与したり、防犯活動に関する民間組織や公共団体からの様々な助成や各種コンクールの募集の情報などを提供することもあります。



パトロールや見守り活動も三者で連携し、活動を推進していこう！

- 規準表〈31b〉 地域の特性を踏まえ、地域、学校、警察の相互連携ができる。
- 〈64a〉 防犯に関する情報入手の手段を知り、活用することができる。
- 〈32a〉 地域の特性を理解しながら、地域、学校、警察、保護者の連携のために積極的に活動することができる。
- ねらい ③地域の学校や警察との連絡調整ができる。
- ④危険箇所の改善を関係機関へ要請・要望することができる。
- ②携帯情報端末（携帯電話）などを利用したタイムリーな情報伝達の方法を知り活用できる。
- ③防犯に関する情報を活用し、地域の防犯活動に役立てることができる。
- ③地域の防犯担当（警察生活安全課・学校・自治会など）と情報交換ができる。



ホームページを利用した連携

現在では、ホームページなどを使って学校・警察・地域のそれぞれの組織で情報発信を行うことが可能になりました。また、メールや掲示板などを用いて情報を交流することも容易にできるようになりました。このような情報手段を用いて、それぞれの組織の情報を相互にリンクし合い情報を共有したり、コミュニケーションツールを活用して情報を結びつけたりしながら、3つの組織が一体となって地域の防犯活動に取り組むことが大切です。



ビデオ教材 (ビデオ→ 地域での組織作りと連携)

※ビデオを見て、地域、学校、警察の連携と、ボランティア立ち上げの流れについてまとめてみましょう。

ビデオ資料 (関連ビデオ→ 学校と地域ボランティア、学校との協力)

ビデオの事例を参考に、学校との協力体制についてまとめてみましょう。

Column

学校・地域・警察の3者間では日常的な連携に加え、緊急時の連絡体制を作っておくことが望ましいといえます。スムーズに情報の伝達が行えることで混乱を避け、被害を抑えることに繋がります。

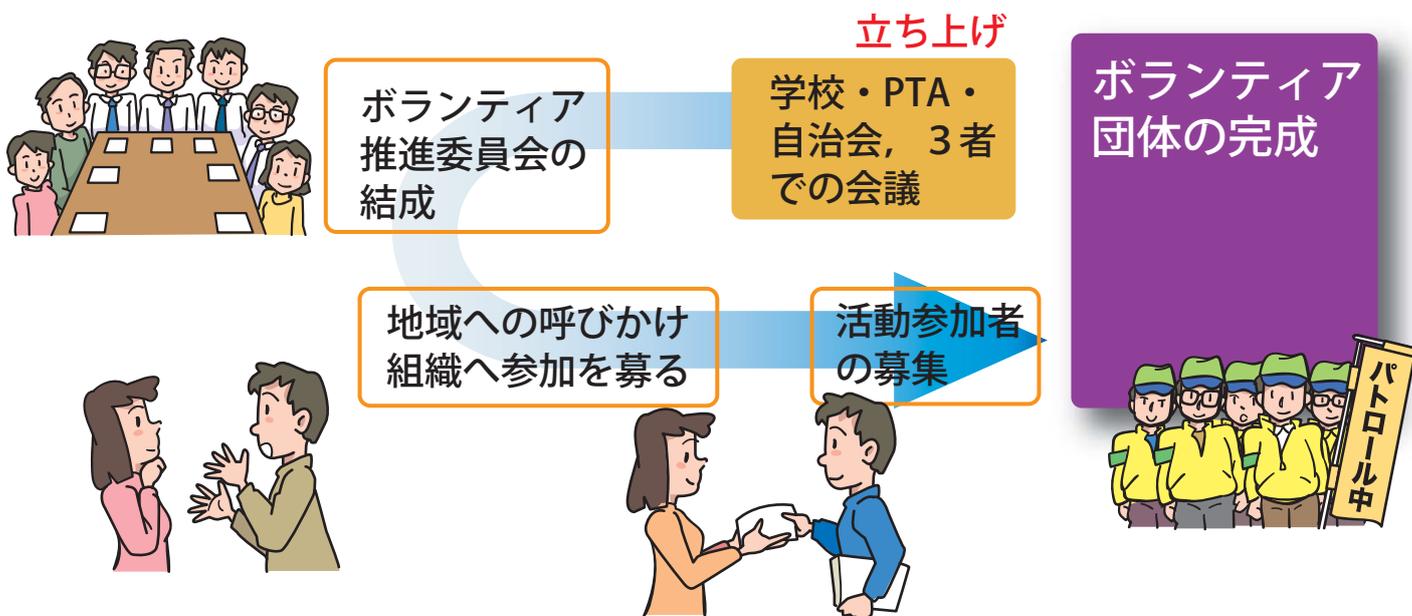
防犯ボランティアの立ち上げ

協力して取り組もう！

地域の防犯意識を高めるためには、学校・警察・地域がそれぞれの役割を果たして連携することが大切です。ボランティア組織の立ち上げから運営までその連携のあり方を見ていきましょう。

まず、地域防犯のボランティア組織を立ち上げます。いろいろな組織からの立ち上げがありますが、ここでは学校のPTAと自治体の呼びかけでボランティア組織が作られた場合を想定します。

学校に集まり、PTAと自治会の役員が集まって最初の話し合いを持ちます。その際、学校から校長、教頭、安全担当教員、生徒指導担当教員、学校評議員などの出席を求めます。どのような組織にするのか、それぞれの組織ごとの窓口を決めたり、どのような活動を行うのか話し合ったりして大まかな枠組みを決めます。次に、警察や地元企業、近隣の中学・高校・大学、教育委員会、公民館、市町村の安全担当者など地域の組織に呼びかけるとともに、地域住民（自治会、商店会、老人会など）にも呼びかけて防犯ボランティア組織への参加を募り、推進委員会を結成します。



結成には関係機関との協力が重要！

- 規準表 <46a> 地域の関係機関と連携し、自主防犯組織の結成および自主防犯活動の活性化を支援することができる。
- <47a> 地域の防犯活動について、その内容を広めるための方法を理解し、実施することができる。
- ねらい ①防犯活動を行う際に地域に呼びかけ、協力を得ることができる。
- ⑤自主防犯組織の立ち上げから活動に至るまでの流れを知っている。
- ⑤啓発のためのアイテム（服装やシール、ロゴなど）を企画・立案することができる。

役割を決めよう！

地域防犯ボランティアの推進委員会が立ち上がったなら、役員を決め、事務局も設置します。この推進委員会が活動の運営を担っていくことになります。そしてこの推進委員会が中心となって地域の組織や住民にボランティアの参加を募り、ボランティア組織ができあがります。

ボランティア組織では規模や活動内容に応じて班分けを行い、チームリーダーを決めて実際の防犯活動に取り組みます。この際、警察の生活安全課にアドバイスを求めることが必要です。警察からは防犯活動に関するアドバイス、のぼりや腕章、赤色ライトなどの備品の貸与を受けたりできる場合もあります。また、防犯に関する様々な助成や他地域での取り組みなどの情報も得られるかもしれません。このようなボランティアの活動では日頃の活動で得られた情報を学校や警察と共有し、地域ぐるみで防犯活動を行うことが大切です。

—ビデオ資料— (関連ビデオ→ 活動の維持, それぞれの知識・経験を生かす)

※ビデオを見て組織づくりのポイントについてまとめてみましょう。



シンボルを決めよう

結成した団体にシンボルを設ける場合には、「地域にちなんだ名称」や「キャラクタ」を付けることで地域に活動が根付きやすくなるでしょう。キャラクタを決める際には地域の広報誌などで募集してみるのもよいでしょう。